

令和7年度 全国私立中学高等学校
全国私学教育研究集会
神奈川大会 実施案内

会期

令和7年
10月2日(木)・3日(金)

会場

パシフィコ横浜アネックスホール
ヨハマ グランド インターコンチネンタル ホテル
ビジョンセンター横浜(西口)
(神奈川県横浜市)

生徒とともに未来を拓く私学教育
～近代私学発祥の地から新たな発信～



主催 一般財団法人日本私学教育研究所

実施 関東地区私立中学高等学校協議会 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

後援 神奈川県(予定) 横浜市(予定) 日本私立中学高等学校連合会

も く じ

ご案内	1
大会役員等一覧	2
実施概要	4
全体集会	7
記念講演	8
神奈川県私立学校活動紹介	9
1 私学経営部会	10
2 教育課程部会	12
3 法人管理事務運営部会	14
4 生徒指導部会	16
5 グローバル教育部会	18
6 ICT・AI 教育部会	20
運営委員・専門委員一覧	22
参加（大会・教育懇談会）申込みと参加費の納入について	24
会場のご案内	26
参加申込書	

※本実施案内中の中学校と高等学校の併設校の学校名の表記につきましては、
「〔学校名〕 中学高等学校」として掲載しておりますのでご了承下さい。

ご 案 内

深刻化を増す少子化による生徒数の減少、全国的な教員志望の学生の減少による教員不足、働き方改革による教職員の適切な労務管理等、私学教育を取り巻く環境は年々厳しくなっています。

一方、グローバル教育の推進、生成 AI などのデジタル教育への対応など、私学教育には建学の精神に基づき、生徒が生涯にわたって主体的学び続け、問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てることが強く求められています。

令和 7 年度の「全国私学教育研究集会」は、「生徒とともに未来を拓く私学教育～近代私学発祥の地から新たな発信～」を研究目標に、10 月 2 日（木）・3 日（金）の 2 日間、神奈川県横浜市で開催します。神奈川県での開催は 30 年ぶりとなります。会場は初日の全体会はパシフィコ横浜アネックスホール、教育懇談会は近くのヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル、2 日目の各部会はアネックスホールとビジョンセンター横浜（西口）を会場に開催します。

初日の全体集会では俳優の紺野美沙子様をお迎えし、「『星は見ている』～平和な世界を願って～」と題して記念講演をいただきます。紺野様ご自身も神奈川県内の私学ご出身で、今までにも神奈川県私学の初任者研修を含め、多くの事業にご協力をいただいております。今回は、国連開発計画親善大使のご経験のお話しをはじめ、第二次世界大戦時に原爆投下で子どもを失った母親の手記を映像交えて朗読していただくなど、平和な世界の大切さを伝えていただく予定です。続いて、日本私立中学高等学校連合会と日本私学教育研究所より、「教育政策と私学情勢」と題して中央情勢報告及び今後の私学教育への取り組み等の報告、神奈川県私立学校活動紹介を行います。

2 日目は私立学校の運営及び柱となる 6 つの部会（私学経営部会、教育課程部会、法人管理事務運営部会、生徒指導部会、グローバル教育部会、ICT・AI 教育部会）を設置し、参加された先生方が課題と今後の対応等について共有していただける機会としたいと考えています。

神奈川県は「みなとみらい」を代表する新都市開発地区をはじめ、古都鎌倉、江ノ島・湘南、そして温泉で有名な箱根など、一日では廻ることができないほどの観光地であるとともに、横浜中華街など異文化の食事を楽しむことができる場所が数多くあります。また、黒船来航により大きく変わった日本の歴史を感じさせる文化遺産にも触れることもできます。

各校におかれましては、建学の精神に基づき特色ある教育活動を展開されていると思います。全国から多くの先生方にご参加いただき、未来を拓く私学教育の実現に寄与する大会となりますことを祈念し、ここにご案内申し上げます。

令和 7 年 4 月

全国私学教育研究集会神奈川大会

実行委員長 工 藤 誠 一

(関東地区私立中学高等学校協議会 会長)

(一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 理事長)

大会役員等一覧 (順不同)

1. 大会役員

吉田 晋	一般財団法人日本私学教育研究所 富士見丘中学高等学校	理事長 理事長・校長
長塚 篤夫	一般財団法人日本私学教育研究所 順天中学高等学校	副理事長・全国集会総括責任者 校長
山中 幸平	一般財団法人日本私学教育研究所 学校法人山中学園	副理事長 学園長
平方 邦行	一般財団法人日本私学教育研究所	理事・所長
鈴木 康之	一般財団法人日本私学教育研究所 水戸女子高等学校	理事・全国集会副総括責任者 理事長・校長

2. 実行委員

委員長 工藤 誠一	関東地区私立中学高等学校協議会 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会	会長 理事長
鈴木 康之	聖光学院中学高等学校 茨城県私学協会	理事長・校長 会長
船田 元	水戸女子高等学校 栃木県私立中学高等学校連合会	理事長・校長 会長
野口 秀樹	作新学院中学高等学校 群馬県私立小・中・高等学校協会	理事長・高校長 会長
青木 徹	樹徳中学高等学校 一般社団法人埼玉県私学協会	理事長 会長
川並 芳純	学校法人開智学園 一般社団法人千葉県私立中学高等学校会	校長 会長
田沼 光明	光英 VERITAS 中学高等学校 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会	副理事長 理事長・校長
長塚 篤夫	横浜学園高等学校 一般財団法人日本私学教育研究所	副理事長・全国集会総括責任者 校長
平方 邦行	順天中学高等学校 一般財団法人日本私学教育研究所	理事・所長

3. 運営総括委員

委員長

田 沼 光 明 横 浜 学 園 高 等 学 校 理 事 長 ・ 校 長

副委員長

柏 木 照 正 学 校 法 人 柏 木 学 園 理 事 長

川 名 稔 学 校 法 人 横 須 賀 学 院 学 院 長

竹 内 博 之 学 校 法 人 鎌 倉 学 園 理 事

鳥 越 政 晴 サ レ ジ オ 学 院 中 学 高 等 学 校 理 事 長 ・ 校 長

武 藤 薫 子 聖 和 学 院 中 学 高 等 学 校 事 務 長

吉 田 和 市 三 浦 学 苑 高 等 学 校 校 長

平 間 宏 一 横 浜 女 学 院 中 学 高 等 学 校 副 理 事 長 ・ 校 長

宮 阪 元 子 洗 足 学 園 中 学 高 等 学 校 校 長

実施概要

- 1 研究目標 生徒とともに未来を拓く私学教育～近代私学発祥の地から新たな発信～
社会は今までとは比較できないほど急速に変化している。少子化の進行も深刻な課題となっており、私学は未来を見据えた経営を早急に推進しなければならない。どのように生徒に幅広い視野を持たせ、そして未来の社会に対応すべきスキルを身に付けさせることができるのか。私学だからこそ実践できる、建学の精神に基づいた未来につながる教育を模索する。
- 2 会 期 令和7年10月2日（木）～10月3日（金）の2日間
- 3 会 場 初 日 [パシフィコ横浜アネックスホール](#)及び
[ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル](#)
 2日目 [パシフィコ横浜アネックスホール](#)及び
[ビジョンセンター横浜（西口）](#)
- 4 募集人員 800名
- 5 参加対象 都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校の管理職・教職員
- 6 基本日程 ※日程は変更となる場合があります。

月日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
初日 10/2（木）				受付	開 会 式 ★	※1	報 告 I	※2	★	記 念 講 演	★	教 育 懇 談 会
2日目 10/3（金）		部 会		昼 食		部 会				(※1) 私立学校活動紹介 (※2) 報告II (★) 休憩・移動		

(注) 部会日程は、部会により若干異なる場合がございます。詳細は各部会実施概要をご覧ください。

- 7 全体会
 神奈川県私立学校活動紹介
 「チアリーディング」 横浜女学院中学高等学校チアリーディング部
 「和太鼓」 光明学園相模原高等学校和太鼓部

報 告 「教育政策と私学情勢について」

日本私立中学高等学校連合会 会 長 吉 田 晋

一般財団法人日本私学教育研究所 所 長 平 方 邦 行

記念講演 「『星は見ている』～平和な世界を願って～」

俳 優 紺 野 美 沙 子

8 部 会

1 私学経営部会

これからの時代を生き抜く人間を育む私学教育と経営

募集人員 200名

2 教育課程部会

より良き社会の実現を担う若者の育成

～社会変革を目指す若者を育てる探究学習のあり方とは～

募集人員 130名

3 法人管理事務運営部会

私立学校における新しい労務管理

募集人員 130名

4 生徒指導部会

特別な教育的ニーズをもつ生徒への対応・支援を考える

募集人員 100名

5 グローバル教育部会

グローバル教育の課題

～異文化理解教育の実現を目指して～

募集人員 120名

6 ICT・AI教育部会

教育におけるAI活用の未来とその可能性

～次の時代の教師・学校の役割とは～

募集人員 120名

- 各部会の日程、内容等については10ページ以降に掲載しています。
- 参加ご希望の部会を申込書記入欄にご記入の上、お申し込み下さい。
- 募集定員に達した場合、募集を締切ることがありますので予めご了承下さい。

9 参加費 16,000円

(2日目昼食費を含む。宿泊費・教育懇談会費別)

10 参加申込 本案内の24ページを参照の上、9月12日(金)までに参加申込みをお願いします。

11 問合せ 一般財団法人日本私学教育研究所
「全国私学教育研究集会神奈川大会」担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷 UNビル6階
TEL 03 (3222) 1621 FAX 03 (3222) 1683
参加申込受付用メールアドレス kenshukai@shigaku.or.jp
ホームページ <https://www.shigaku.or.jp/>



教育懇談会

日時 令和7年10月2日(木) 18時00分～〈立食形式〉
会場 ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル 3階「ボールルーム」
参加費 10,000円 参加をご希望の方は大会参加申込書の教育懇談会
申込欄の「参加」を○で囲んで下さい。

●**傷害保険について**

本大会期間中の参加者等の傷害保険には、加入致しませんのでご承知おき下さい。

ご参加の皆様へお願い

○**研修会場での動画・写真撮影等について**

- ・当研修会での主催者記録係・取材メディア以外による録画・録音は禁止します。
- ・講師・発表者等の許可無く研修会の写真・内容等のホームページ・ブログや各種SNS等へのアップロードは禁止します。
- ・撮影した動画・写真は当研究所広報活動(刊行物・ホームページ掲載等)や取材メディアの新聞掲載等で使用する場合があります。会場内の様子を撮影する関係上、参加者が写真や動画に映り込む可能性がありますので、予めご了承下さい。

全体集会

1 日 時 令和7年10月2日(木) 13時～17時30分

2 会 場 パシフィコ横浜アネックスホール

3 開 会 式 13時～13時30分
(1) 開会のことば
(2) 主催者挨拶
(3) 実行委員長挨拶
(4) 来賓祝辞
(5) 次期開催地区代表挨拶
(6) 閉式のことば

4 全 体 会 13時30分～17時30分

神奈川県私立学校活動紹介

「チアリーディング」 横浜女学院中学高等学校チアリーディング部

「和太鼓」 光明学園相模原高等学校和太鼓部

報 告 「教育政策と私学情勢について」

日本私立中学高等学校連合会 会 長 吉 田 晋

一般財団法人日本私学教育研究所 所 長 平 方 邦 行

記念講演 「『星は見ている』～平和な世界を願って～」

俳 優 紺 野 美沙子

記念講演

「星は見ている」～平和な世界を願って～

紺野 美沙子 <こんの みさこ>

俳優



プロフィール

1980年、慶応義塾大学在学中にNHK連続テレビ小説「虹を織る」のヒロイン役で人気を博す。「武田信玄」「あすか」など多数のドラマに出演。舞台「細雪」(原作：谷崎潤一郎)では三女・雪子役を好演。他に「忠臣蔵」「日本の面影」(作：山田太一)「両国花錦闘士」(原作：岡野玲子)など、硬軟を問わず意欲的に舞台に取り組んでいる。

バラエティ番組にも度々出演し、飾らないトークで注目を集めている。

1998年に国連開発計画親善大使の任命を受け27年間、カンボジア・パレスチナ他、アジア・アフリカの各国を視察するなど、国際協力の分野でも活動を続けた。国連開発計画(UNDP)親善大使としての活動著書に「ラララ親善大使」(小学館刊)がある。

2010年秋から「紺野美沙子の朗読座」を主宰。音楽や影絵、映像など、様々なジャンルのアートと朗読を組み合わせたパフォーマンスを全国各地で公演している。

2022年夏から、平和の大切さを伝える母親の手記「星は見ている」の朗読活動をスタート。DVDを制作し、教育機関等に無償提供する新しい試みに取り組んでいる。

NHKエフエム「音楽遊覧飛行」案内役を担当。元祖スー女としても知られ横綱審議委員である。

受賞経歴

- 1980年 エランドール新人賞(映画テレビプロデューサー協会)受賞
- 1984年 ウーマンオブザイヤー ハーレクインロマンス賞受賞
- 1987年 日本アカデミー賞優秀助演女優賞受賞
- 1995年 日本文芸大賞女流文学賞受賞(対象作品「空飛ぶホタテ」)
- 2024年 グッドエイジャー賞受賞

神奈川県私立学校活動紹介

※プログラム内容は変更する場合があります。

「チアリーディング」

横浜女学院中学高等学校チアリーディング部

横浜女学院中学高等学校

【建学の精神】

プロテスタントのキリスト教精神による女子の人間教育を行う。聖書こそ人間の創る真実の教えであると信じ、十字架に連なる「愛と誠」の教育に全力を尽くす。この目的のために、教える者も教えを受ける者も、主による「感謝・信頼・希望」を重んじる。

【特色】

横浜女学院は太平洋戦争の戦禍を被った2つの学校を、1947年に金子正先生が再興のために合併させ、新しい「建学の精神」の下に門出をした学校である。創立は138年、合併創立から77年になる。

横浜女学院中学高等学校は、神様と人に愛されている存在として、自己受容力を高め、多角的かつグローバルな視野をもち、社会貢献を果たすことのできる生徒を育てるべくプロテスタント・キリスト教主義の、完全中高一貫の女子校として、国際教養クラスとアカデミッククラスとを設置し、6年間の成長に合わせたプログラムで自己を知り、世界を広げ、未来を拓く教育活動を行っている。

【チアリーディング部】

本校チアリーディング部、チームガゼルスは「思いやり」をモットーに、中高合わせて69名の部員1人ひとりが、高い目標を持ち、日々の練習に励んでいる。目標に向かって計画を立て、自己調整しながら努力し、仲間と協働していく過程の中で、豊かな人格を形成していくことを目指している。

2024年チアリーディング関東選手権大会では中学ユース部門優勝を果たすなど、活躍をしている。

本日は皆さまにチアリーディングの醍醐味である、元気・勇気・笑顔をお届けする。



「和太鼓」

光明学園相模原高等学校和太鼓部

光明学園相模原高等学校

【建学の精神】智慧と慈悲をもって明るく幸せな社会の実現に努める人間を育成する

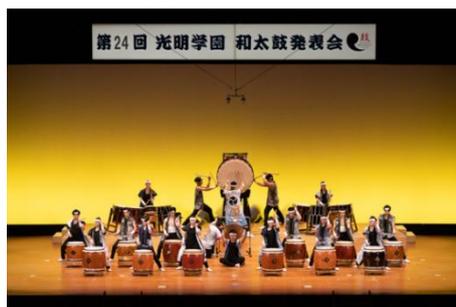
本校では“智慧”と“慈悲”を建学の二本柱としております。“智慧”とは真理を追究する探究心と向上心。“慈悲”とは見返りを求めない優しさ。ただその人のために尽くす気持ちが大切です。それがあれば相手も全力で受け止めてくれます。輝く自分を育てその輝きで相手を明るく照らす。それが光明学園の願いです。

【特色】

総合・体育科学・文理の3コースに分かれ、生徒たちの目標と興味に合わせたカリキュラムを導入しています。また、「建学」の授業や「修養会」を通じた心の教育の実践や「探求活動」での課題解決能力の育成、海外修学旅行を主とした「国際理解」などにも取り組み、高校卒業後の社会において、多方面で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

【和太鼓部】

我々、和太鼓部は平成元年に伝統文化の保存会として立ち上がりました。活動を通して同好会、部活動に昇格し、今年度で創部37年目を迎えております。年間60回近くの演奏依頼を頂き、相模原市の地域イベントや老人ホームへの慰問、学校機関などの地域貢献に根ざした活動に努めております。過去には、ニューヨークや韓国、ベトナム等の海外公演の機会に恵まれ、融和世界の実現に向けた活動にも取り組んでおります。このように、日本の伝統楽器を通じて地域の活性化や発展および異文化交流に寄与できるよう日々、精進しております。



1 私学経営部会

研究目標

これからの時代を生き抜く人間を育む私学教育と経営

社会がかつてないほど急速に変化する中で、高度情報化、グローバル化、少子化の進行が加速している。刻々と進む技術変革に対応できる専門知識とスキルを備えた人材育成が求められているが、私学が実践すべきなのは、人間教育だと言えるだろう。他者と協力しながら積極的に自らの力を発揮し国内外で活躍できる若者を育てる必要がある。

当部会では、私学としての独自性を大切にしながら、課題に立ち向かい時代を切り拓いていく私学教育と経営のあり方をともに探っていきたい。

- 1 募集人員 200名
- 2 会 場 パシフィコ横浜アネックスホール
- 3 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、事務局長、事務長またはこれらに準ずる管理職

4 日 程

	時間	9	10	11	12	13	14	15	16
月日		15	35	45				30	
10月3日 (金)	開 会 式	講演 I		講演 II		昼食	パネル・ ディスカッション		閉 会 式

5 内 容

講演 I

演 題 神奈川を未来につながる Delightful City へ
～DeNA の考えるデータを活用した社会と経済～（仮）

講 師 おかむら 岡村 しんご 信悟 株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役兼 CEO

講演 II

演 題 神奈川私学協会の挑戦～個の独立・群の創造～

講 師 くどう 工藤 せいいち 誠一 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 理事長
聖光学院中学高等学校 理事長・校長

パネル・ディスカッション

テーマ これからの時代を生き抜く人間を育む私学教育と経営

パネリスト	いなば 稲葉	ひとし 人司	株式会社ヒューマン・リンク	代表取締役社長
	たぬま 田沼	みつあき 光明	(神奈川県) 横浜学園高等学校	理事長・校長
	するが 摺河	まさひこ 祐彦	(兵庫県) 姫路女学院中学高等学校	理事長・校長
コーディネーター	ながつか 長塚	あつお 篤夫	(東京都) 順天中学高等学校	校長

《講師プロフィール》

岡村 信悟 株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役兼 CEO

東京大学大学院修了。1995年郵政省（現総務省）入省。2015年総務省情報流通行政局郵政行政部企画課企画官に就任。2016年4月株式会社ディー・エヌ・エーに入社横浜スタジオム代表取締役社長等を務める。2016年10月横浜 DeNA ベイスターズ代表取締役社長に就任。2019年4月横浜スタジオム取締役会長（現任）、2021年4月株式会社ディー・エヌ・エー代表取締役社長兼 CEO（現任）。

工藤 誠一 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 理事長
聖光学院中学高等学校 理事長・校長

1955年横浜市生まれ。聖光学院中学高等学校、明治大学法学部卒、同大大学院政治経済学研究所博士前期課程単位取得修了。1978年に聖光学院中学高等学校に教員として奉職。事務長、教頭を経て2004年校長就任、2011年から理事長、2019年からさゆり幼稚園園長兼務。2022年から静岡聖光学院中学高等学校理事長・校長兼務。県私立中学高等学校協会、県私学退職基金財団、県私立学校教育振興会、横浜 YMCA の各理事長を務める。2016年藍綬褒章受章。

稲葉 人司 株式会社ヒューマン・リンク 代表取締役社長

神戸大学卒業後、1984年に株式会社日本 LCA に入社。1986年よりコンサルタントとして、指導、診断業務を50社以上担当する。1991年に同社人事部長に就任後、1993年より株式会社ヒューマン・リンクへ移籍し、2004年より同社代表取締役社長に就任する。

ヒューマン・リンクでは主に私学法人を対象としたコンサルティングを担当しており、一般企業の指導や診断で培ったマーケティングや人材育成、あるいは組織活性化の手法を私学経営、及び私学改革に結びつけた指導には高い評価を得ている。また、近年は教育現場におけるルーブリックの導入や活用に取り組み、現在では25校で延べ500種類以上の策定に携わっている。

2 教育課程部会

研究目標

より良き社会の実現を担う若者の育成 ～社会変革を目指す若者を育てる探究学習のあり方とは～

探究学習とは、自ら課題や問いを見いだし、主体的で協働的な取り組みを通して、それに対する最適解を導き出していく横断的な学びの場である。非認知能力を最大限に引き出すには、私学が自校の建学の精神を存分に生かし、「どう生きるのか？」という生徒自身のあり方への問いを醸成させながら、特色ある教育活動を展開していくことが求められる。

当部会では、「総合的な探究の時間」等探究学習を建学の精神に基づく資質・能力を養成するチャンスと捉え、その実現に向けたコンテンツと評価の両面を考察することで、各校のカリキュラムマネジメントへの一助となれればと願っている。

- 1 募集人員 130名
- 2 会場 パシフィコ横浜アネックスホール
- 3 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、教務主任及び教員
- 4 日程

時間 月日	9	10	11	12	13	14	15	16
	15	35	45			35	45	45
10月3日 (金)	開 会 式	講演 I	実践発表 I	昼食	講演 II・ ワークショップ		実践発表 II	閉 会 式

5 内 容

講演 I

演 題 主体的・対話的・深い学びを実現する総合探究の展開と評価

講 師 さわだ みのる 上智大学総合人間科学部 教授
澤 田 稔 教職・学芸員課程センター長

講演 II・ワークショップ

演 題 探究と個別最適な学びをつなぐ学習環境の構築（仮）

講 師 たいざん ゆう 中京大学教養教育研究院 教授
泰 山 裕

実践発表 I

テーマ 総合探究「KG プロジェクト」の紹介

発表者 福田 孝 (神奈川県) 北鎌倉女子学園中学高等学校 教諭

実践発表 II

テーマ 「総合的な探究の時間」の年間プログラムの企画・運営について

発表者 染谷 諒 (神奈川県) サレジオ学院中学高等学校 教諭

《講師プロフィール》

澤田 稔 上智大学総合人間科学部 教授
教職・学芸員課程センター長

<学歴>

1994年4月 - 1998年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科 (博士後期課程)
1991年4月 - 1993年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科 (博士前期課程) 国際開発専攻
1982年4月 - 1987年3月 名古屋大学教育学部

<研究テーマ>

- ・福祉的再編を基軸とした次世代型公教育システムの開発
- ・公立デモクラティック・スクールのカリキュラム・教育方法論に関する日米比較研究
- ・話し合い活動を重視した道徳授業の根本原理となる批判的討議倫理学の理論的基礎研究
- ・日本における多文化教育の構築に関する研究-外国人児童生徒と共に学ぶ学校教育の創造
- ・現代アメリカ合衆国における批判的ペダゴジーの最前線:ポスト NCLB の理論と実践へ
- ・現代アメリカにおける道徳教育のポリティクス:批判的教育研究から見た人格教育の諸相

泰山 裕 中京大学教養教育研究院 教授

<学歴>

2007年3月 関西大学総合情報学部・卒業、学士 (情報学)
2009年3月 関西大学大学院博士課程前期課程・修了、修士 (情報学)
2014年3月 関西大学情報科学研究科博士課程後期・修了、博士 (情報学)

<研究テーマ>

これからの社会を切り開く子どもたちに必要な能力を育むための教育のあり方について、教育工学の視点から研究。

正解のない問いを考え抜く、それを自分でコントロールできるような「自律的探究者」の育成のために、どのような授業、評価、環境が求められるのかについて研究。

- ・探究的な学びの基盤となる能力とは何か、それをどう育むか
- ・思考ツールを活用した思考スキルの指導
- ・情報活用能力の育成
- ・探究的な学びを支援する学習環境をどのようにデザインするか
- ・児童生徒の探究的な学びを支援する授業設計
- ・探究的な学びの状況を把握し、必要な支援を検討するための方法
- ・探究的な学びの成果を評価するための方法

実践報告 I

テーマ 私学としての労務管理（仮）

報告者 あら いくろう
荒 生 朗 （神奈川県） 藤嶺学園藤沢中学高等学校 事務長

実践報告 II

テーマ 働き方改革進展の実践対応（主にシステム面から）

報告者 いしばし だいじょう
石 橋 大 城 （神奈川県） サレジオ学院中学高等学校 事務長

研究協議

●参加者主体の情報交換

2 つの実践報告をもとに参加者を小グループに分け、労務管理等について意見交換を行う。

コーディネーター 法人管理事務運営部会運営委員（神奈川県）

指導助言 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会事務長会

《講師プロフィール》

田中 崇司 横浜第一社会保険労務士事務所 代表

- 横浜第一社会保険労務士事務所 代表
- 東京大学文学部を卒業（在学中は、労働社会学ゼミに所属）
大学を卒業後、TBS テレビ報道局社会部の記者（旧文部省や旧労働省を専門に担当）、朝日新聞東京本社記者などを経て、社会保険労務士を開業した。
- 社会保険労務士業の傍ら、2013年度から2年間、神奈川労働局の非常勤職員として、労働基準監督署の窓口で相談業務にも従事した。
- 現在、教育と労働の関係法令の両方に詳しい学校法人専門の社会保険労務士として、幼稚園・小学校・中学校・高等学校はもちろん、専修学校・大学まで多くの関与先を持ち、私立学校に関する、就業規則の改定・労務問題の相談・労働基準監督官の臨検対応など様々な業務に携わっている。
- また、日常業務に加え、全国各地の協会や学校法人等に赴き、私立学校の理事長・校長・事務長・事務担当者の方々に向けた講演・研修を多数行っている。

天野 直樹 永井・天野法律事務所 パートナー弁護士

聖光学院高等学校を卒業後、中央大学法学部に進学。
司法試験に合格した後、1999年に永井法律事務所に弁護士として就職し、2007年より現職で務めている。またその他に横浜家庭裁判所調停委員、横浜家庭裁判所非常勤裁判官なども兼任している。
主に、破産管財・不動産・相続・離婚・労働事件などの民事事件を中心に担当している。正義を振りかざすのではなく、サービス業であることを忘れず、職業人としてのプロ意識を持つこと、依頼者の納得・満足を得ること、を大切にし、弁護士活動を行っている。

4 生徒指導部会

研究目標

特別な教育的ニーズをもつ生徒への対応・支援を考える

社会が今までとは比較できないほど急速に変化している中で、特別な教育的ニーズをもつ生徒への対応が多様化している。生徒に寄り添い、支援することで生徒自らが幅広い視野を持ち、困り感を解消していくことが求められている。

当部会では、より良い未来を切り拓く力を生徒が身につけるための生徒指導・生徒支援のあり方を考えていきたい。

- 1 募集人員 100名
- 2 会場 ビジョンセンター横浜（西口）
- 3 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、生徒指導担当等教員
- 4 日程

時間	9	10	11	12	13	14	15	16
月日	9 15	35 45	45					45
10月3日 (金)	開 会 式	講演Ⅰ	講演Ⅱ	昼食	講演Ⅲ・ワークショップ			閉 会 式

5 内 容

講演Ⅰ

演 題 思春期、こころの風景～10000件のカウンセリングから診えたこと～

よしだ かつあき
講 師 吉 田 勝 明 横浜鶴見リハビリテーション病院 院長

講演Ⅱ

演 題 神奈川修学支援センターの取り組み

あたか かつみ
講 師 安 宅 克 己 神奈川私学修学支援センター センター長

講演Ⅲ・ワークショップ

演 題 創造的リスクマネジメント（未来思考型）を考える

きむら まさひこ
講 師 木 村 昌 彦 国立大学法人横浜国立大学 副学長（附属学校担当）

《講師プロフィール》

吉田 勝明 横浜鶴見リハビリテーション病院 院長

1956年福岡県生まれ。医学博士。日本老年精神医学会専門医、精神科専門医。日本音楽療法学会理事。1982年金沢医科大学医学部卒業。1988年東京医科大学大学院卒業。横浜相原病院にて、院長として25年以上勤務後、横浜鶴見リハビリテーション病院院長。30年間、認知症患者とその家族に寄り添い、介護する側・される側、両者にとってよい治療法を模索し続けている。

さらに神奈川県教育委員、神奈川私学修学支援センタースーパーバイザー、洗足学園中学高等学校スクールカウンセラー等を兼務され神奈川県の教育に貢献している。

安宅 克己 神奈川私学修学支援センター センター長

学習院大学大学院人文科学研究科国文学専攻前期博士課程修了後、2021年聖光学院中学高等学校に教員として奉職。2015年校長補佐、2016年教頭、2020年4月に神奈川私学修学支援センター長に就任。センター長に就任以来、神奈川県私立中学高等学校協会に加盟している学校の在籍生徒で、現在不登校状態にある生徒の修学を、在籍校と連携しつつ支援してきた。これまで多くの生徒にきめ細やかな支援を行い、保護者からも信頼を得ている。

木村 昌彦 国立大学法人横浜国立大学 副学長（附属学校担当）

筑波大学を卒業後、山梨大学大学院で博士号を取得、横浜国立大学で教鞭をとり、横浜国立大学附属鎌倉小学校・中学校の校長、教育学部学部長を歴任され、2024年3月に定年退職、4月からは附属学校担当の副学長に就任。

また、神奈川県体育学会長（2024年3月任期満了）、日本武道協議会理事、神奈川県学生柔道連盟顧問、鎌倉市教育委員会点検評価委員、横浜市教育委員会委員（2024年3月任期満了）など、様々な要職で活躍されている。

柔道では、全柔連強化委員会委員として1992年バルセロナオリンピックから2016年リオデジャネイロオリンピックまで、柔道日本代表選手団に携わり、2016年リオデジャネイロオリンピックでは柔道日本代表チームのチームリーダーとして選手を牽引された。

近年では、全日本柔道連盟指導者養成委員会委員長として、現在の指導者養成システムの礎を築き、発達障害と柔道に関して、全日本柔道連盟の担当的立場にある。

5 グローバル教育部会

研究目標

グローバル教育の課題 ～異文化理解教育の実現を目指して～

グローバル化の進展によって世界に共通する課題が以前にも増して身近に感じるようになってきている。国レベルを超えて他者と協働して課題を発見・解決する力を育む、よりグローバルを意識した教育を実践することが求められている。その実践のためには異文化理解の精神が極めて重要である。

当部会では、私学だからこそできる異文化理解の力を効果的に育む、教科等横断的な視点を大切にした目指すべき教育について議論していきたい。

- 1 募集人員 120名
- 2 会場 ビジョンセンター横浜（西口）
- 3 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、教員
- 4 日程

時間	9	10	11	12	13	14	15	16
月日	9 15	10	11 15 30	12 30	13 30	14	15 30	16
10月3日 (金)	開 会 式	講演Ⅰ・ ワークショップ		実践 発表	昼食	講演Ⅱ・ ワークショップ		閉 会 式

5 内 容

講演Ⅰ・ワークショップ

演 題 グローバル社会に対応する力を育てるために
～持続可能な開発のための教育～

すぎむら みき 上智大学 学長
講 師 杉 村 美 紀 総合人間科学部教育学科 教授

講演Ⅱ・ワークショップ

演 題 知っておきたいグローバル社会の常識
～世界の歴史とニュースの現場から考える～

ますだ
講 師 増 田 ユリヤ ジャーナリスト

実践発表

テーマ 神奈川県私立中学高等学校協会国際交流の取り組み

発表者 くりはら みわ (神奈川県) 湘南白百合学園中学高等学校 教諭
栗原 美和 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 国際交流事業委員

《講師プロフィール》

杉村 美紀 上智大学 学長
総合人間科学部教育学科 教授

専門は比較教育学、国際教育学。

JICA 緒方貞子平和開発研究所客員研究員、国連大学サステナビリティ高等研究所客員教授、アジア太平洋環境大学院ネットワーク (ProSPER.NET) Vice-Chair、日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員等を併任。日本ユネスコ国内委員 (2016年～2022年)、日本比較教育学会会長 (2017年～2023年)、2024年より世界比較教育学会常任理事。2022年には中央教育審議会教育振興基本計画臨時部会委員、ユネスコ勧告改正のための国際専門家委員を務めた。

アジア諸国を中心とする教育政策と多文化教育、ならびにグローバル化・国際化のもとで進展する高等教育の国際連携ネットワークと教育文化交流の動向、さらに持続可能な開発のための教育 (ESD) を研究テーマとしており、2024年2月からチェア「人間の尊厳、平和、サステナビリティのための教育」を務めている。これまで、国際共同研究の研究代表者として、「国際教育市場におけるアジア諸国の高等教育戦略に関する国際共同研究」、「アジア・オセアニアにおける留学生移動と教育のボーダーレス化に関する実証的比較研究」、「人の国際移動と多文化社会の変容に関する比較教育研究」、「紛争後のスリランカ平和構築と持続的発展に関する高等教育・人材育成のあり方とは—『マレーシア・モデル』との比較分析を通じた国際共同研究」、「高等教育における学修成果の可視化に関する国際共同研究」ならびに「アジアにおける持続可能な開発のための教育 (ESD) をめぐる比較国際教育研究」を行ってきた。

増田 ユリヤ ジャーナリスト

神奈川県横浜市出身。横浜女学院高等学校、國學院大學文学部史学科を卒業。神奈川県、東京都の私立高等学校で27年にわたり社会科講師として世界史・日本史・現代社会などを教えながらNHKラジオ・テレビのリポーターを務めた。

現在は、テレビ朝日系列「大下容子 ワイド! スクランブル」レギュラーコメンテーター、テレビ朝日放送番組審議会副委員長。国内外のニュースの現場を取材し、さまざまなメディアで活動している。

著書に『世界を救う mRNA ワクチンの開発者カタリン・カリコ』『チョコレートで読み解く世界史』『ニュースがわかる 国境学』など多数ある。

また、『池上彰と増田ユリヤのYouTube 学園』でもニュースや世界史をわかりやすく解説している。

6 ICT・AI 教育部会

研究目標

教育における AI 活用の未来とその可能性 ～次の時代の教師・学校の役割とは～

人工知能の発展は生成 AI の開発により新たなステージを迎え、医療・金融・製造をはじめとしたあらゆる分野において活用に向けた取り組みが世界規模で進んでいる。教育分野に関しても例外ではなく、未来を担う子どもたちへの AI を活用した教育に世界の国々が挙って踏み出している。

日本においても、GIGA スクール構想において急速に普及した教育現場でのハードウェアを有効活用していくには、ソフトウェアへの理解と研究が必要不可欠であり、その中でもとりわけ生成 AI を活用した教育が鍵となる。

当部会では、生成 AI を学校教育の中でどのように取り扱っていくかを専門家の講演の中から探り、実践発表を通して AI 活用事例を共有することで、各校が私学独自の教育を構築する一助としたい。

- 1 募集人員 120名
- 2 会場 ビジョンセンター横浜（西口）
- 3 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、教員

4 日程

時間	9	10	11	12	13	14	15	16
月日	15	50	30	30	30	45	45	
10月3日 (金)	開 会 式	講演 I	講演 II	昼食	実践発表 I	実践発表 II	閉 会 式	

5 内容

講演 I

演題 AI と共に育つ未来～保護者としての私が娘に伝えたい未来へ準備～

講師 つばい かずな
坪井 一菜
マイクロソフトディベロップメント株式会社
サーチテクノロジー開発統括部 プログラムマネージャー

講演 II

演題 AI 時代のこどもの学び

講師 なかがわ ひとし
中川 一史
放送大学学園次世代教育研究開発センター センター長
放送大学 教授

実践発表 I

テーマ 生成 AI を活用した国語授業

発表者 おおば まなみ
大場 愛美 (神奈川県) 神奈川大学附属中学高等学校 教諭

実践発表 II

テーマ 生成 AI と協働する教員の役割～学校全体での AI (ICT) 活用の実践報告～

発表者 かぶき しんや
蕪木 慎也 (神奈川県) 洗足学園中学高等学校 教頭

《講師プロフィール》

坪井 一菜 マイクロソフトディベロップメント株式会社
サーチテクノロジー開発統括部 プログラムマネージャー

洗足学園高等学校卒業、慶應義塾大学理工学部卒業、同大学院理工学研究科修士課程修了。2014年マイクロソフトディベロップメント株式会社に入社。「りんな」のプロジェクト立ち上げメンバーとして、「りんな」のキャラクター付けから、会話エンジン、音声合成などの開発に携わる。幼少期の海外生活を経て、それぞれの人の個性を尊重する価値観に共感。AIの開発にあたって多種多様な業界とのコラボレーションを実現し、人が共感できる内容を生み出すことの重要性に気付き、AIのコンテンツが日本中の心を動かす時を常に探っている。

中川 一史 放送大学学園次世代教育研究開発センター センター長
放送大学 教授

博士(情報学) 専門は情報教育、メディア教育、特に ICT 活用教育の研究と実践を行う。長年にわたり学校現場での ICT 活用教育の推進に貢献。文部科学省や各地の教育機関と協力し、ICT を活用した学びの環境整備に取り組む。また、AI やデジタル技術を用いた未来の教育の在り方についても精力的に発信している。

AI 時代の教育学会(会長)、日本 STEM 教育学会(副会長)、日本教育メディア学会(理事)、中央教育審議会初等中等教育分科会「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会」(委員)

運営委員・専門委員一覧 (順不同)

全体集会

●運営委員・指導員

委員長	川名	稔	学	校	法	人	横	須	賀	学	院	学院長		
副委員長	萩原	千加子	力	リ	タ	ス	女	子	中	学	高	等	校	校長
委員	芝	祐彦	横	須	賀	学	院	高	等	学	校	副校長		
	山本	奈央	横	須	賀	学	院	中	学	高	等	校	教諭	
	田中	秀好	横	須	賀	学	院	中	学	高	等	校	事務主事	
	中村	豪志	力	リ	タ	ス	女	子	中	学	高	等	校	事務職員
	久保田	祐子	横	浜	雙	葉	中	学	高	等	学	校	養護教諭	
	松田	裕香子	日	本	大	学	中	学	高	等	学	校	養護教諭	

私学経営部会

●運営委員・指導員

委員長	竹内	博之	学	校	法	人	鎌	倉	学	園	理事
副委員長	岡田	直哉	桐	蔭	学	園	高	等	学	校	校長
委員	木下	庸子	横	浜	雙	葉	中	学	高	等	校
	森田	祐二	関	東	学	院	中	学	高	等	校
	伊藤	旭栄	光	明	学	園	相	模	原	高	等
	稲垣	勝二	横	浜	創	英	中	学	高	等	校

●私学経営専門委員・指導員

教育課程部会

●運営委員・指導員

委員長	鳥越	政晴	サ	レ	ジ	才	学	院	中	学	高	等	学	校	理事長・校長
副委員長	小澤	伸男	横	浜	共	立	学	園	中	学	高	等	学	校	校長
委員	中井	俊夫	サ	レ	ジ	才	学	院	中	学	高	等	学	校	教頭
	川口	留美	サ	レ	ジ	才	学	園	中	学	高	等	学	校	教頭
	安栗	智子	サ	レ	ジ	才	学	院	中	学	高	等	学	校	事務職員
	和泉	貴大	横	浜	共	立	学	園	中	学	高	等	学	校	事務職員

●教育課程専門委員・指導員

法人管理事務運営部会

●運営委員・指導員

委員長	武藤 薫	子聖	和学	学院	中学	高等	学校	事務
副委員長	来原 雅	宏聖	真女	学学	校中	高等	学学	務務
委員	横山 伸	也サ	レジ	オ学	院中	高等	学学	局長
	小見山 茂	樹横	須賀	学院	中学	高等	学学	務務
	岩佐 直	樹逗	子開	成中	学高	等学	校学	務務
	山本 康	史立	花学	園高	等学	校学	務務	長

●法人管理事務運営専門委員・指導員

生徒指導部会

●運営委員・指導員

委員長	吉田 和	市三	浦学	苑高	等学	校校	校長				
副委員長	永川 尚	文横	浜富	士見	丘学	園中	学高	等学	校校	理事	長・校長
委員	畠中 英	治白	鵬須	賀子	女高	等学	校校	教諭			
	谷田 哲	也横	須賀	学学	院中	学学	校校	教頭			
	山田 亮	亮横	浜清	風高	等学	校校	教諭				
	湯原 健	健柏	木学	園高	等学	校校	教諭				

グローバル教育部会

●運営委員・指導員

委員長	平間 宏	一横	浜女	学学	院中	学高	等学	校校	副理	事長・校長
副委員長	望月 伸	一郎	栄光	学学	園中	学高	等学	校校	顧問	
委員	鈴木 雅	子横	浜女	学学	院中	学高	等学	校校	教頭	
	寄高 浩	横横	浜女	学学	院中	学高	等学	校校	校長	補佐
	宇佐美 修	栄光	学学	園中	学高	等学	校校	教諭		
	佐々木 美	樹聖	光学	院中	学高	等学	校校	教諭		
	摺河 道	人横	浜女	学学	院中	学高	等学	校校	教諭	

ICT・AI 教育部会

●運営委員・指導員

委員長	宮阪 元	子洗	足学	学学	園中	学高	等学	校校	校長	
副委員長	小林 道	夫子	神奈	川大	学附	属中	学高	等学	校校	校長
委員	二ツ木 睦	子清	泉女	学学	院中	学高	等学	校校	教頭	
	蕪木 慎	也洗	足学	学学	園中	学高	等学	校校	教頭	
	相澤 也	学横	浜翠	陵中	学高	等学	校校	教諭		
	玉木 大	輔洗	足学	学学	園中	学高	等学	校校	オフィス	マネージャー

参加(大会・教育懇談会)申込みと参加費の納入について

大会参加申込みについて

参加希望者は、別紙「全国私学教育研究集会神奈川大会参加申込書」に必要事項を記入し、参加申込書を申込先記載のメールアドレス宛に添付(PDF)またはFAXで9月12日(金)【必着】までにお送り下さい。

- 注① 2日間のご参加を原則としておりますが、やむを得ず全体集会のみに参加する場合は、「全体集会のみ」に○印を記入して下さい。(大会参加費は変わりません。)
- 注② 部会によっては、募集定員に達した場合、募集を締切ることがありますので、希望する部会は必ず第2希望まで○印を記入して下さい。
- 注③ 申込みが締切日後になる場合は、参加者名簿は追加版への掲載となります。
- 注④ メールでお申込みの際は、「件名」に「神奈川大会申込」と記載して下さい。

【大会参加費の納入について】

- (1)大会参加費は、お一人16,000円です。(10月3日の昼食費が含まれます。)
- (2)申込受付後2週間以内に参加者全員分の「参加確認証」「参加費等請求書(コンビニ払込用紙)」を「関係書類送付先」の所属校(法人)宛に郵送します。参加費は「参加費等請求書(コンビニ払込用紙)」で、指定されたコンビニエンスストアで以下のキャンセル期限までにお振込下さい。なお、参加費の領収書は「払込受領書」をもって代えさせていただきますので、大切に保管して下さい。
- (3)申込後2週間以内に「参加確認証」等が届かない場合は電話でご連絡下さい。

(TEL 03-3222-1621)

教育懇談会参加申込みについて (大会参加費には教育懇談会費は含まれておりません。)

教育懇談会への参加・不参加については「全国私学教育研究集会神奈川大会参加申込書」の「教育懇談会」欄でご回答下さい。

【教育懇談会費の納入について】

- (1)教育懇談会費は、お一人10,000円です。
- (2)大会参加確認証等と併せて、教育懇談会参加確認証を郵送します。教育懇談会費は大会参加費と合算して1枚の「参加費等請求書(コンビニ払込用紙)」をお送りします。

宿泊の申込み (大会参加費には宿泊費は含まれておりません。)

※今大会では宿泊先の斡旋は行っておりません。宿泊は各自でご手配下さい。

変更・キャンセルについて (大会及び教育懇談会)

必ずメールまたはFAXにて下記宛にご連絡下さい。

- ①変更の場合は「参加確認証(再発行)」を郵送します。
- ②キャンセルの場合は「キャンセル確認書」をメールまたはFAX致します。
- 注 メールでのキャンセル連絡の際は、件名「神奈川大会キャンセル〇名」と記載して下さい。

キャンセルポリシー	
9月17日(水)まで	事務手数料1,000円を差し引いた参加費を返金します。
9月18日(木)以降 及び 無断欠席	返金できません。大会資料等の発送をもって代えさせていただきます。大会参加費・教育懇談会費の未払いの場合は、キャンセル料として全額分(大会参加費16,000円・教育懇談会費10,000円)を申し受けます。天変地異や自然災害等によるキャンセルの場合は、状況により対応しますので、ご相談下さい。

個人情報の取り扱いについて

当研究所では、参加者の個人情報は、厳重に管理・保護の上、その取扱いについては、法令その他の規範を遵守し、細心の注意を払います。参加申込書にご記入頂く個人情報は、参加確認証及び大会参加のために必要な書類の送付、参加者名簿の作成、当研究所の研修会開催等情報の送付、また何らかの理由で大会の参加者に連絡する必要がある場合のみに利用します。

◆ (大会・教育懇談会)申込先

一般財団法人日本私学教育研究所 「全国私学教育研究集会神奈川大会 事務局」

参加申込受付用メールアドレス kenshukai@shigaku.or.jp

※メールでお申込みの際は、「件名」に「神奈川大会申込」と記入して下さい。

FAX 03-3222-1683

会場のご案内

【パシフィコ横浜アネックスホール/ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル/ビジョンセンター横浜(西口)】



ビジョンセンター横浜(西口)
アクセス QR コード

★パシフィコ横浜アネックスホール

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1 / TEL.045-221-2155

◎横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩 5 分、
JR 京浜東北線・根岸線「桜木町駅」から徒歩 12 分

★ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル

〒220-8522 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1 / TEL.045-223-2300

◎横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩 5 分、
JR 京浜東北線・根岸線「桜木町駅」から徒歩 12 分

★ビジョンセンター横浜 (西口)

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 2-5-15 プレミア横浜西口ビル / TEL.080-3494-7386

◎横浜駅 (各線) 「西口」徒歩 5 分、「ジョイナス地下街 南 12 番出口」徒歩 2 分

令和7年度 全国私学教育研究集会神奈川大会 参加申込書

申込み締切日：9月12日（金）

※FAXにてお申込みの際は送信前にFAX番号をご確認下さい。0(ゼロ)発信のFAX機で送信する場合は、「0」を押してから、FAX番号を押して下さい。

申込書 送付・ 送信先	一般財団法人日本私学教育研究所「全国私学教育研究集会神奈川大会事務局」宛 TEL03-3222-1621 メール： kenshukai@shigaku.or.jp （本申込書のPDFデータを添付の上、お送り下さい。） ※メールでお申込みの際は、「件名」に「神奈川大会申込」と記入して下さい。 FAX：03-3222-1683（FAX送付状は不要です。）
-------------------	--

記入日 令和7年 月 日

都道府県名		学校(法人)名	
学校所在地 (郵便番号は必ず ご記入下さい。)	〒 _____ TEL _____ FAX _____ メールアドレス (_____)		
関係書類送付先	所属・職名	氏名	

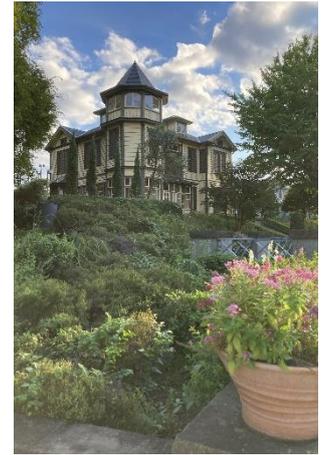
- ◆すべての参加者の参加確認証および参加費の請求書・払込票は一括して「関係書類送付先」宛にお送りします。
 (学校所在地欄に記載の住所にお送りします。) ※記入のない場合はNo.1に記載の参加者にお送りします。
- ◆参加希望部会(第1希望・第2希望)、教育懇談会(参加・不参加)を○で囲んで下さい。

日私 教研 記入欄	No.	ふりがな 氏名	職名	参加希望部会 (会場の収容人数等により第2希望になる場合があります。 ご了承下さい。)		教育 懇談会 (有料)
				第1希望	第2希望	
				私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	参加 不参加
				私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	参加 不参加
				私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	参加 不参加
				私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	参加 不参加
				私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	私学経営 教育課程 法人管理事務運営 生徒指導 グローバル教育 ICT・AI教育 全体会のみ	参加 不参加

※参加者が6名以上の場合は、恐れ入りますが本用紙をコピーしてご使用下さい。なお、その際、上欄の学校名を各々に記載し、2枚目以降のNo.を6、7、・・・と記入して下さい。また、右欄(No.)に1、2、・・・のように番号を記入して下さい。

	No.
No.(日私教研記入欄)	

切り取り線



表紙 みなとみらい（横浜市桜木町駅前）

裏表紙 [左上から]

みなとみらい夜景（横浜市）

みなとみらい（横浜市）

江ノ島電鉄（藤沢市）

鎌倉高校踏切（鎌倉市）

江ノ島・片瀬西浜海岸（藤沢市）

横浜山手西洋館（横浜市）

新江ノ島水族館（藤沢市）

長谷寺（鎌倉市）

※掲載写真は神奈川県私立中学校・高等学校の生徒が撮影・提供